

防災 コラム



8月26日は「火山防災の日」 火山について知ってみよう

活動火山対策特別措置法に基づき、国民の皆さんに活火山対策についての関心と理解を深めていただくため、毎年8月26日を「火山防災の日」と定めています。この日は、明治44年（1911年）に日本で最初の火山観測所が浅間山に設置され、観測が始まった歴史的な日でもあります。火山観測の重要性が認識されるようになったこの日を通じて、私たちの周囲に存在する活火山について改めて考えてみましょう。

「身近には活火山がないから心配する必要はない」そう考えている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、県内には、鳥海山、肘折、蔵王山、吾妻山といった活火山があり、これらの山々は観光名所としても知られ、多くの人々が訪れています。火山は美しい自然の一部であると同時に、火山災害

のリスクを抱えていることも忘れてはなりません。火山の噴火や地震などの自然災害は、私たちの生活に直接影響を及ぼす可能性があるため、事前の備えが重要です。

「火山防災の日」をひとつのきっかけとして、私たち自身の火山災害に対する備えを見直してみよう。登山や観光で活火山を訪れる際には、事前に避難場所や緊急連絡先、火山の活動状況など必要な情報を確認することが大切です。火山災害は決して他人事ではなく、私たち一人ひとりが意識し、行動することで、より安全な環境を築くことができます。ぜひ、8月26日を機に、火山防災について考え、家族や友人と情報を共有し、地域全体での防災意識を高めていきましょう。



気象庁
「火山防災の日」
特設ページ



気象庁
「噴火警報・噴火速報」
ページ

町立金山診療所だより vol.197

ほっとクリニック

大腸がん検診について

消化器内科医師 佐藤 裕人

金山町の皆さん、こんにちは。時々非常勤で外来を担当させていただいております、佐藤と申します。今回は「大腸がん・大腸ポリープ」についてお話しさせていただきます。

大腸がんは、男性ではがんによる死亡の第2位、女性では第1位とされており、毎年約5万人の方が大腸がんで亡くなっていると言われています。主な症状は便秘、腹痛、血便などですが、これらの症状は病気が進行しないと現れないことが多いのが特徴です。では、どうすれば早期に発見できるのでしょうか？皆さんが健康診断などで受ける「便潜血検査」が、大腸がんの一次検診として広く用いられていますが、これを受けるだけで本当に大丈夫でしょうか？

先日、ある患者さんから「大腸カメラはしたくないが、大腸がんが心配なので便潜血検査をしてほしい」と相談されました。結果は陰性で、「これで今後大腸がんにならなくて済む」と安心されたようでした。しかし、これに本当に大丈夫でしょうか？結論はNOです。便潜血検査は、大腸がんを見つけるきっかけとなる有用な検査ではありませんが、陽性だからといって「必ず大腸がんである」とは言えませんし、陰性だからといって「絶対に大腸がんではない」とも言えません。あくまで、大腸がんの表面から出血を拾う検査（痔などを拾うこともある）であり、大腸がんの可能性を見つけるためのスクリーニング検査なのです。そのため、毎年便潜血検査を受けること、そして結果が陽性であれば、必ず大腸カメラによる精密検査を受けることが大切です。大腸ポリープも、放置すると大きくなってしまう可能性があります。早期に発見できれば、大腸カメラによる日帰りの治療だけで完治することも十分に可能です。

ご質問やご意見などございましたら、ぜひお気軽にお知らせください。このコラムが、皆さんの健康維持に少しでもお役に立てれば幸いです。

ーわたしと金山ー

No.29

林 寛治

「金山町マルコの蔵・広場」

現在、国道13号の上台峠から一気に広がる金山町の遠望は、四季それぞれに素晴らしい眺めです。杉の林間を曲がって突然眺望がひろがり、鳥海山から金山三山に続く大パノラマの麓に金山の中心部が静かに佇んでいる風景は絶景です。

私の記憶に残る古い「金山に着いた！」という情景のポイントがいくつかあります。まず、旧道の曲がりくねった峠の山道を下り、上台集落に入った時。次に、山崎集落群の各戸の茅葺屋根の妻側が道路に面し前庭をもって立ち木の間に規則正しく見えてくることで、今は名所となった「大内宿」のごとくだった。暫く田園が続きます。そして、七日町（柳町）を行くと、「一心堂薬局」が正面に構え、ハイ！ここからが金山中心部ですというサインに皆が感じたと思います。最後に、右折して一歩踏み込むと、七日町通りが一直線に200m弱通り、イチヤマ家と西田家の大屋根の広い妻面が小路を挟んで通りに向かってアイストップの如く七日町通りに向かって正対しています。

七日町通り西側には、小野寺家、星川家・ヤマニ旅館、佐藤家、栗田家・米穀店、の大・中大屋根妻面が南面して立ち並んでいます。今から150年前後以前から、町民建築主と地元棟梁たちの「街並み景観意識」が、中小都市に先駆けて、自然体で無意識に醸成されていたことが伝わります。

七日町から直角東西に走る十日町通りは力ネカ川崎家が常態保存で金山伝統建築の様相をよく伝えております。またマルイ岸家住宅も残されて活用してもらいたい伝統建築です。西田家からマルイ岸家の蔵までの間は七日町の奥に位置して静かな街並み環境が漂います。

西田知人君の遺言で西田寛子夫人が敷地奥の2棟の土蔵を鈴木洋町長時代に金山町に無償寄贈がなされ、林と片山教授とが「金山町・風景と町並景観」の要となる施設として敷地全体を含めた設計委託をうけました。土蔵の旧状では雪害防止のために二重に簡易壁に覆われていましたので、本体の傷みは少なく、傾きも見られなかったことで、残された甲斐がありました。「丸に小」という西田家の屋号からマルコの蔵・ひろば」という町長の命名は秀逸だと思いました。偶然ながらヴェネツィアの中心広場が「サン・マルコ広場」で毎年世界中から何百万もの人々人が訪れて賑わっています。

東蔵は町の紹介を兼ねた物産販売と



▲役場庁舎上部から「マルコの蔵ひろば」を見下ろす。林寛治撮

カフェで2階はオープンギャラリーと奥が小サロンです。西蔵1階はささやかな展示室、2階が街並みづくり展示室になりました。先年、皇太子殿下時代の天皇陛下が吉村県知事のご案内で瞬時お立ち寄りの光栄に与かった旨をうかがいました。金山の素朴さを感じていただいたこと意をありがたくおもいます。

主屋跡の前面空地は畑と緑地として残されていたことは幸いでした。七日町通りと十日町通りの起点となる交差点であり、西南の角地に施設建築物は不要であり、「町民や訪れる人々が自由に交流・活用し資する日本のひろば」を提案しました。私の眼から見て、蔵史館や役場町民ホールの活用の上手さ



▲「マルコの蔵ひろば」を通じて東蔵と背後に楯山一部を望む。林寛治撮

は、十分すぎるほど実証済でしたから、回廊を回し水場も設けて、青空市場や、ギター演奏、コーラスグループの青空コンサートなどを、想像・期待しました。ベンチは語り合いの場、昼寝するもよし、食べるもよし、但し、ごみの片付けは各自持ち帰りのルールが必要ですね。夏の陽が落ちてから、動画やスライドの発表会など、広場と回廊は文字通りオープンスペースです。蔵史館・サロンぽすと・マルコの蔵・広場が、町民老若男女が競い合って、活用の幅が広がることを期待します。